令和６年度神奈川県立小田原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和６年度神奈川県立小田原支援学校第２回学校運営協議会		
開催日時	令和６年８月 26 日（月）14：00～16：00		
開催場所	神奈川県立小田原支援学校　応接室		
出席者	委員５名（欠席３）　事務局８名		
次回開催予定日	令和６年 11 月 12 日（火）10：00～12：00		
問合せ先	小田原支援学校湯河原校舎　副校長　杉山 電話　0465－60－1800(直通)　FAX　0465－60－1805 本校（小田原校舎） 電話　0465－37－2758(直通)　FAX　0465－37－5356		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	会場参加及び ZOOM によるオンライン参加のハイブリット開催 出席委員　　会場参加：５名、オンライン参加：０名（欠席３名） １　会長挨拶（鈴木会長） ・とても暑い夏だった。神奈川では少し気温が下がってきている。第２回運営協議会は夏休み中の実施だが、情報共有をしやすい時期でもあるので「話ができてよかった」となるような会にしたい。 ２　校長挨拶 ・１学期大きな事故なし。 ・県の運営規則変更により、６０日の休みを柔軟に考えることができるようになった。本校は３学期制。２学期制も考えたが、今年の夏の暑さを考えると２学期制でよかった（課業は３学期制、評価は２学期制)。 ・暑さ指数では、運動が外でできない状況もあるが、夏季休業中、特体連の大会、清掃技能検定に高等部の生徒が参加。 ・小中学部の児童生徒は地域の事業所の利用が多い。 ・PTA と共同で環境整備に取り組んだ。 ・県費でアスファルトの舗装工事やエアコンの設置など環境整備も行った。 ・９月～高等部１年生も１人１台端末が配備された。全校として整った。個別教育計画とリンクさせながら進めていきたい。 ・課題としては、ＳＢ利用者が増えており、県に増便を申請している。時間がかかるのでマイクロバスを使いながら進めていく。教職員の欠員等の休みがトータルで 20 人。産休１５人に対し、６人		

	代替が決まっているがマイナス部分が多く非常勤を日割りでやりくりしている。また、総括総出で対応している。安心で安全な教育活動を目指す。 ・校内ではICTや人権研修も行った。 ・南海トラフも心配される。防災についても確認を行い、ご意見をいただき活かしていきたい。 〇学校評価部会 １　１学期の学校の状況について、学校HPから紹介 ・学校HPから各学部の様子について紹介 ２　意見交換 （牛膓委員） ・防災についての危機感が大きくなっている。非常時の備えについて教員と児童生徒それぞれの取組について知りたい。 →防災訓練年２回実施。水害についても垂直避難実施。備蓄食料の補充、点検、配当、教員の動きの確認。備蓄食料や物品の場所についても教職員で確認を行った。児童生徒は、防災AR（拡張現実）を用いた取り組みを体験的に学習した。 （榊原委員） ・コロナ感染者が増えている。法人として取り組みの見直しを予定。保護者へのお知らせも行う。感染予防をお願いしたい。 ・大きな地震が懸念される。防犯マニュアル改めて見直す必要があると考える。学校との連携もお願いしたい。 ・個別支援計画を領域ごとに書き換えを行う。半期に１回書き換えを行うので連携をお願いしたい。 ・総合教育センターのアドバイザー会議の内容としては、人材確保に苦戦していること、教員の研修についてセルフプランとなり自らの学びに移行していること、支援学校と地域の学校との連携についてあげられた。 ・学校運営の柔軟化の話題を受け、来年度以降のスケジュールについて早めに知りたい。 →来年度については、２学期の終わりから検討する。夏の公開研修会では、又村氏にご講演いただいた。放課後等デイサービスの時間が変わってくるため、学校の教育課程を考えていく必要がある。協力して空白の時間を作らないようにしていく。

	（川端委員） ・小田原校舎と湯河原校舎合同の活動がコロナ以降少なかったが、増えてきている現状がありよかった。子どもたちや保護者の反応はどうであったか。 →知的教育部門　高等部の修学旅行は小田原校舎生徒と共に湯河原校舎生徒８名が一緒に参加した。コロナの関係で積み重ねがなかった分、打ち解けるまでに時間がかかったが、時間がたてば自然に打ち解けることができた。積極的に輪を広げていく必要性を感じた。湯河原校舎の保護者はコミュニティが広がることを喜んでいる。 →小田原・湯河原校舎合同で体育大会が実施された。一緒にやることでお互いを知ることにつながった。卒業後を見据えて、いろいろな人と関わる経験を積めるようにしたい。 ＜非常時の参集について＞ （管理部より） ・非常時集まるメンバー　管理職＋40 名 ・大井分教室と湯河原校舎、看護師は、人数少なく集まるのが大変な状況が考えられる。 ・地震５強で参集 ・管理職が連絡し、体制を作っていく。学校から一番近い職員がカギを開ける仕組みになっている。 （鈴木会長） ・震度５弱と５強での動きを確認しておく。 ・事前の備えをしっかりしておくことが大切。 ・地域と協働した人的交流の取組、１学期の様子を知りたい。 →足柄小学校に３名派遣されている。通常級の子どもたちへの理解を深め、相互理解を図れるような授業を行っている。リソースルームを設置した。スヌーズレンルームの活用を足柄小学校でも実施し、体験できるようにした。インクルーシブ通信や HP での配信。居住地交流の充実。コンサルテーションの視点でミーテングなど支援教育の種まきを行っている。 （鈴木会長） ・着々と進めている。県立学校の教員が市立の学校に勤務し協働する取り組みはめずらしい。教員が共に学び、子どもも学びを深めていく。

	○部会会議（各部会） １　部会報告 ＜防災部会＞ ・１学期の取組について共有。 ・大井分教室の非常用電源設置…大井高校がなくなった後を考えていく。 ・AR 機器の体験の様子について授業の動画を見ながら確認。 ・備蓄食料のアレルギー対応についても調べて揃えていく。 ・防災について、茅ケ崎支援学校で実施するフェスに参加し、情報を集め、充実を図っていく。 ・非常食や物品置き場がない。 ・小学部の物品が分散しているため分かりにくい。 ・教員の対応訓練も必要。 ・第 3 回学校運営協議会で AR 機器のバーチャル体験を行う。 ＜切れ目ない支援部会＞ ・切れ目時の情報のつなげ方が難しいと地域の先生たちから声あり。 ・本校入学時の連携についてのニーズが増えている。 ・卒業後の情報共有難しい。高等部よりも前の情報についても知りたいとの要望あり。 ・支援シートの活用 ・移行支援会議の充実 ・医療と福祉の溝があり、連携の難しさがある。相談が大切。県西の現状としては医療的ケアの生徒の受け入れが難しい。人材確保が課題。 ２　全体を通じて （校長） ・医療Ｃｏ．を地区で要請していく。武井様が県西の担当であるか。学校訪問の機会があるかもしれない。 （榊原氏） ・県西の医療Ｃｏ．要請は１名程度。現状、養成研修を受けたのは１名。 ・もう１名の医療Ｃｏ．が必要である。要請もしているが難しい。 ・研修については不明。 ・マンパワーとしては、組織的に厳しい状況。 →学校としては、研修生の受け入れなど協力できる。

	３　まとめ （鈴木会長） ・部会の情報交換など充実したものになった。 ・ＡＲの様子は、ビデオ視聴があり分かりやすかった。 〇次回　11 月 12 日（火）１０：００～　中間評価など 【切れ目ない支援部会】 ＜参加者＞　５名 川端慎副会長　牛腸昌利委員　榊原友二委員 ＜欠席者＞　１名 山崎美由樹委員 （事務局） 窪田教頭　　支援連携部長　三輪 〇難しいのは切れ目のところの連携。受け手はもっと情報が欲しい。学校の先生は連携の術を知らないことが多い。 〇小田原支援学校では、関係機関とのケース会議、保育所等訪問事業、医療との連携の件数増えている。 〇実習などでは情報が入ってきにくい。担当者会議。遅れ気味。計画相談あるかどうか。高等部の様子はわかっても、高等部前の様子がわからない。保護者に聞くしかない現状。 〇医療と福祉の連携が難しい。医療の答えは一つだが、福祉は生活そのものなので明確な答えはない。相談が大事。基幹相談は明確な位置付けがないと感じる。医療的ケアのニーズ高い。未就学から就学に向けて相談したいと思っている保護者多い。支援学校との連携もとりたい。医療的ケアの送迎支援については、県西は広いが件数は少ないため法人としては採算に合わない。学校からの要望も意見交換したい。 〇移行支援の連携。学校の役割が大きい。支援シートの活用については何年か前より周知されるようになってきた。連携の大切さが周知されたからか。移行支援会議大切。 〇共働きの保護者も増え、医療的ケアの子であっても合理的な支援は絶対的に受けられるようにしたいが人材確保できない。 〇医療的ケアコーディネーター。学校での研修のニーズがあるかもしれない。

	【防災部会】 参加者：鈴木正一（会長）、鈴木健一郎（副校長）、杉山恵一郎（副校長）、府川聡（管理部長） 欠席者：木村秀昭委員、安藤由紀委員 １　１学期の取り組み（報告） （１）　5/23（木）第１回避難訓練 ・地震、シェイクアウト・津波・火災を想定した垂直避難 （２）　6/11（火）情報伝達訓練 ・教育局、学校、保護者の３者間における情報伝達訓練 ・マチコミを使った訓練 （３）　６/13（木）職員防災研修会の計画・実施 ・防災倉庫の位置の確認 ・避難体制の確認 （４）　6/27（木）～7/19（金）防災教育（AR 機器） ・保健体育課より AR 機器を借用 ・本校中学部、分教室、湯河原校舎で実施 （５）　7/19（金）　備蓄食料、防災物品点検 （６）　8/5（月）　２０２４年度備蓄食料配備（県費） ２　湯河原校舎・大井分教室について 　湯河原校舎 ・湯河原町との福祉避難所に係る協定について、担当者間での顔合わせを行った。 　大井分教室 ・現在、非常用電源がない。設置していきたい。 ・大井高校生がいるのもあと 1 年なので、その後を見据えて配備していく必要がある。 ３　防災教育の様子の報告（AR 機器を使った） （１）　iPad ・水害アプリを利用。水害時の映像を大型テレビに映し、生徒と情報を共有。 （２）　AR ゴーグル ・煙体験と消火体験を実施。 ・煙体験は煙が充満する部屋の中で、煙の少ない場所を探して小さくなって移動することを体験。 ・消火体験は火に向かって消火器の液をかける体験。

	４　情報交換・意見交換 ・PTA 予算１０万円でテント（プライベートが確保されるタイプ）を購入してはどうだろうか。今ある８張りは劣化しているため。 →テントは確認して廃棄する場合は事務と相談。 ・湯河原校舎からは防災担架希望。 ・最近は防災食もアレルギー対応食やハラル対応食などが出ている。現在備蓄している食料は通常食と配慮食だけだが、アレルギー対応食も用意してみてはどうか。 ・防災フェスタのようなものをやっていることがある（茅ケ崎支援など)。PTA とも情報を共有していけるとよい。 ・実際に災害時に動けるように、生徒の避難訓練だけでなく、職員のための防災訓練もやってみてはどうか。 ５　今後の予定 ・9/4（月）　児童生徒引き渡し訓練 ・10/7（月）　第２回避難訓練→地域の方も是非ご見学下さい。 ・11/12（火）　第３回防災部会→AR 防災教育体験を予定 ・本日欠席だった委員には後日内容を伝える。